

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	吉田 大輔
国文学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
日本文学史	国文	1
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
子どもと文学	国文	2
ジェンダーと文学	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
近現代文学講読Ⅱ	国文	2
文学と地域	国文	2
ゼミⅡ	国文	2

②担任制度

担任（1年生）		担任（2年生）	
---------	--	---------	--

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャセンター運営委員会	
FD委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	☒ 有・ 無
助成者	日本学術振興会

資金名	科学研究費
研究種目	若手研究
期間	2022 年 4 月から 2024 年 4 月（3 年間）
助成金額（期間中合計）	270 万円（3 年間の総計）
研究課題	文学と商工業の結索点としての「実業小説」—『実業少年』と幸田露伴に注目して—
備考（分担者等）	研究代表者

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援とを実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	【授業に関して】「類似」（似ている）を発見する力を鍛えたい 人間の思考は、4つの要素に分割して捉えられる。4つとは、「抽象」（まとめると）「具体」（たとえば）「類似」（似ている）「差異」（違う）である。これらの要素を事象に即して展開できる力が思考力なのだと考える。このうち、高校までの学校教育において、ものごとを抽象化する力と緊密な関係があるにも関わらず、もっとも育てられる機会が少ない能力は、「類似」を発見する力である。このような認識に基づき、さまざまなレベルでの「類似」を発見させる力を養い、生物学で言う「相同」（見た目は違うが本質は同じ）と「相似」（見た目は似ているが本質は違う）をさまざまな事象に対して発見できる力を涵養したい。 【授業以外に関して】アイディアを複数出せるように支援したい 授業以外では、自身のおかれた環境と自身の願望・志向とを折衷させながら、状況に対して複数のアイディアを自分自身で思い付き、検討し、最良のアイディアを実行できる学生を育てることを目標にする。こうした目標を持って、学生の相談に乗るなどの支援を行いたい。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	今年度の筆者の担当授業のうち、「基礎力プログラムⅠ」（国文1年・春学期）「基礎力プログラムⅡ」（国文1年・秋学期）「基礎ゼミ」（国文1年・秋学期）などの他の教員と連携して行った授業では、国文学科の学生に必要な力を総合的に育成していくよう努めた。 「基礎力プログラムⅠ」では大学での主体的な学びに必要な基礎知識を教授したうえで発表を行ってもらい、知識を確実なものにした。「基礎力プログラムⅡ」ではインタビューを伴うフィールドワークを取り入れ、グループでの学びにつなげていった。「基礎ゼミ」では、個人発表の力を育成し、2年次のゼミへと繋がるようにした。 筆者が単独で担当した授業、「日本文学史」（国文1年・春学期）「ゼミⅠ」（国文2年・春学期）「子どもと文学」（国文2年・春学期）「ジェンダーと文学」（国文2年・春学期）「近現代文学購読Ⅱ」（国文1年・秋学期）「ゼミⅡ」（国文2年・秋学期）「文学と地域」（国文2年・秋学期）では、上述の類似を発見する力を伸ばす展開を心掛けた。 「日本文学史」では、日本近代文学の成立をめぐる「近代」と「日本」をめぐる多くの言説に共通のものがあることに気づかせるように留意した。「ゼミⅠ」では、一人の学生に何らかの類似が見られる2つの作品を担当してもらうことで、共通の問題点を発見してもらうようにした。「子どもと文学」では、「イソップ寓話」から類似の問題を抽出し、絵本を作成してもらった。「ジェンダーと文学」では、1900年前後の性的言説が複数の同時代小説に見られる類似を学生が発見できるよう展開した。「近現代文学購読Ⅱ」では、漱石作品の類似主題へ言及しつつ「三四郎」を購読した。「ゼミⅡ」では、なにかとの比較の観点を重視しながら文学を論じてもらうよう指導した。「文学と地域」では、織田作之助の作品を集中的に読むことで、彼が描いた関西像の共通性を考えた。 上記すべての授業でリアクションペーパーを用い、学生の理解や関心、質問などを把握しつつ、授業を展開した。
授業以外（学生支援等）	特にゼミ生や担任学生とは日常的に学習・大学生活・就職などの相談に乗り、文章添削などを多く行った。その他、授業内外で、ゼミ生や担任学生以外の学生からの相談にも多く乗った。キャリア支援関連のイベントや入学前教育関連の業務などにも注力した。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	他の教員と連携して行った授業、「基礎力プログラムⅠ」「基礎力プログラムⅡ」「基礎ゼミ」では、いずれも積極的に真摯な受講生に助けられ、所期以上の成果となった。 筆者が単独で担当した授業、「日本文学史」「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ジェンダーと文学」「近現代文学購読Ⅱ」「ゼミⅡ」「文学と地域」では、上述の類似を発見する力を育成しようとした。特に、「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ゼミⅡ」「文学と地域」などの科目では、熱心に取り組み、こちらの所期以上のレポートや成果物を完成させた受講生がほとんどだった。 昨年度に引き続き「子どもと文学」で作成した絵本は、学生たちの許可を得て図書館で展示を行い、外部化するように努めた。 授業のリアクションペーパーやアンケートの反応も悪くなく、また、いずれの授業でも学生はおおむね積極的に取り組んでくれ、体感として教室の空気も良好だった。
授業以外 （学生支援等）	ゼミ生や担任学生を中心として、学生の多くが相談しやすい雰囲気が構築できたと考えている。就職に際しての文章添削などの相談を受けたことも多く、具体的な文章への助言などを含めて、学習・就職活動いずれの面でも支援できたと思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	個人の教育理念・目標としている「類似を発見する力の育成」を念頭に実践を継続していきたい。この力を身に着けるための授業方法や教材をさらに考えたい。来年度は、「文章表現」などの日本語ライティングに特化した科目も担当する予定なので、ライティング課題にもこの発想を取り入れていきたい。
授業以外 （学生支援等）	今年度と同じように、学生の多くが相談しやすい雰囲気を構築し、困難への対処を支援していくことに加えて、レポート以外の文章も含め、ライティング添削に力をいれたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育	授業では学生の理解度を測定しつつも、最新の学問的知見を授業に反映させられるよう、教員自らが勉強を怠らないように努めた。さまざまな場面を通じて、学問とは強制されてやるものではなく、喜びによって行うものだということを、態度によって示し、なるべく知的な刺激を多く与えられるように努力した。
広報	広報委員会のメンバーとして、SNSの有効な運用などを議論し、また記事を定期的にアップするなどして、本学のよさを広報しようと努め、高校訪問なども行った。しかし、志願者増にはうまく繋がらず、2024年9月に本学の廃校が決定されたので、あまり努力は実を結ばなかった。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上